

授業科目名	【Gカリキュラム】 情報法Ⅰ ※本年度は開講せず 【EFカリキュラム】 情報法Ⅰ	その他参照	開講年次	【G】3 【EF】3	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	専門科目：【G】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・情報）／【EF】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・情報）					
担当形態	単独	【G】教員の免許状取得のための（-・-・-・情報選択）科目 【EF】教員の免許状取得のための（-・-・-・情報選択）科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	情報の刑法的保護	担当者	小野上 真也			
授業概要	<p>【概要】 本講義では、「情報法」と呼ばれる領域のうち、特に、刑事法に関連する部分を扱います。</p> <p>【到達目標】 情報に対する侵害につき、刑法上いかなる保護があり得るのか、それが刑法の基本原則・原則といかなる関係に立つのか、を理解することに重点を置きます。刑法総論、刑法各論で学習したことを応用できるようにすることも目標の1つです。</p>					
履修条件	刑法総論Ⅰ・Ⅱおよび刑法各論Ⅰ・Ⅱを履修済み・並行履修していることが望ましい。					
教科書・参考書	<p>【教科書】 松井茂樹・鈴木秀美・山口いつ子編『インターネット法』（有斐閣、2016年）（以下、「教科書」と表記） （※なお、上記教科書でカバーされていない講義内トピックスについてはとくに、授業配布レジュメ・講述内容を十分に参照・学習すること。）</p> <p>【参考書】 渡邊卓也『ネットワーク犯罪と刑法理論』（成文堂、2018年）、宇賀克也＝長谷部恭男編『情報法』（有斐閣、2012年）、高橋和之＝松井茂記＝鈴木秀美編『インターネットと法』（第4版）（有斐閣、2010年）、渡邊卓也『電脳空間における刑事的規制』（成文堂、2006年）</p>					
授業回数	授業内容					
1	ガイダンスー情報の刑法的保護とは？ー		予習：刑法において「情報」の保護が問題となる場合について			
			復習：講義中に出された事例について考える			
2	情報と憲法上の権利		予習：表現の自由とプライバシーが競合する場面について			
			復習：表現の自由規制、知る権利と表現の自由			
3	名誉毀損と表現の自由		予習：表現の自由による名誉毀損は常に適法か			
			復習：刑法230条の2と表現の自由			
4	国家機密と報道の自由		予習：報道による機密の漏洩について			
			復習：「外務省機密漏洩事件」の意義			
5	情報の不正入手に関する財産的保護		予習：情報の不正入手に対する処罰規定			
			復習：刑法典の財産犯、不正競争防止法上の対応			
6	コンピュータ犯罪（1）：昭和62（1987）年の刑法一部改正では何が問題となっていたか？		予習：昭和62（1987）年の刑法一部改正による対応			
			復習：なぜこのような改正が必要であったか			
7	コンピュータ犯罪（2）：平成23（2011）年の刑法一部改正では何が問題となっていたか？		予習：平成23（2011）年の刑法一部改正による対応			
			復習：なぜこのような改正が必要であったか			
8	不正アクセス規制		予習：不正アクセス防止法の立法およびその後の改正			
			復習：本法が必要とされた背景事情と本法の意義			
9	サイバー犯罪条約および児童ポルノ処罰法		予習：サイバー犯罪へのわが国の取り組み			
			復習：とくに児童ポルノ規制への対応（近時の改正動向）			
10	コンピュータウイルス作成に関する罪と刑法学上の諸問題		予習：コンピュータウイルスに対する刑法上の対応			
			復習：本罪の制定の意義			
11	インターネット社会と刑法ー著作権法違反事件を素材にー		予習：Winny事件（正犯）、違法ダウンロード処罰規定について			
			復習：インターネット上の犯罪と著作権法の関係			
12	ファイル共有ソフトの開発・提供による著作権法違反幫助罪の成否		予習：Winny提供事件			
			復習：新規技術開発・提供と刑法62条の関係			
13	プロバイダーの刑事責任		予習：プロバイダーの関与は不作為犯や共犯となるか			
			復習：プロバイダーの関与と「作為義務」「従犯」			
14	インターネット犯罪と刑法の場所的適用		予習：外国からの違法行為・国外への違法行為と日本刑法の適用			
			復習：刑法の場所的適用の現代的展開について			
15	情報法のまとめ：学習到達度確認テストおよび解説		予習：教科書該当頁の読み直し、講義内容の的確な理解			
			復習：判例・学説の再理解/提示事例の再検討			
評価方法	学習到達度確認テスト（90%）+受講態度（10%）					
評価基準	上記授業単元の内容について、問題の所在、学説・判例の状況をよく理解し、それらを踏まえて、判例・学説の各事案へのあてはめ、私見を的確・適切に表現できた者にはその程度に応じて「S」または「A」を与えます。単元の内容についての理解や表現に不適切な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、単元の内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とします。なお、試験欠席など、評価不能の場合には「F」とします。					
その他	教科書、六法（最新版）を持参して下さい。毎回、レジュメを配布します。予習に際しては、上記のほか、レジュメ裏面の「次回予告」に記載された事例を検討しておいてください。予習・復習には、各120分程度かかるものと思われます。講義中の私語・携帯電話の使用等、講義内容に無関係のことを行っている者には、退室を命じることがあります。 ※Gカ：法【選択必修（シ）】 球【選択必修（シ）】 情【選択必修（F）】 / EFカ：法【-】 球【-】 経【-】					